

# 2018年6月期 本決算概要



Genky DrugStores株式会社  
(東証一部 9267)

2018年7月20日

1. 2018年6月期 本決算概要
2. 四半期会計期間分析
3. 中期経営計画

# 2018年6月期 連結決算 概要

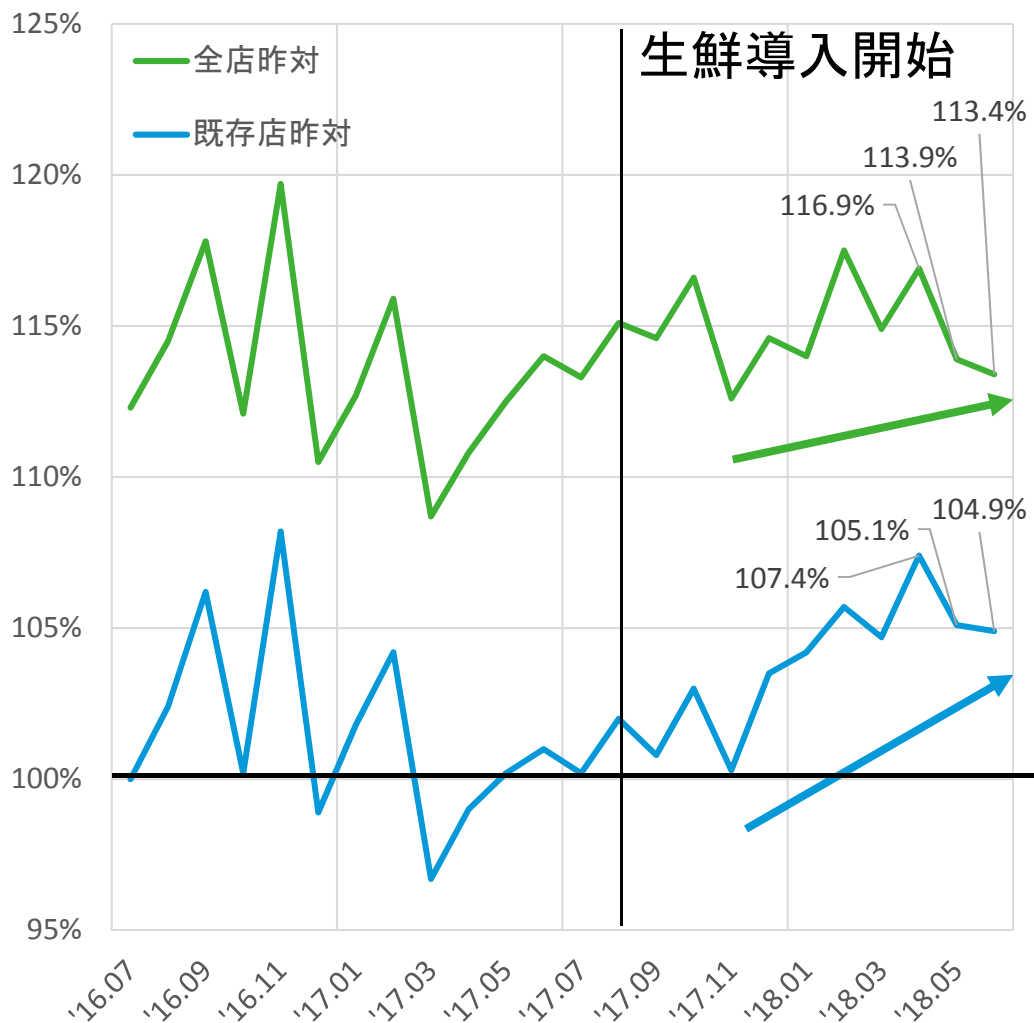


(単位:百万円)

	2017.6期 実績		2018.6期 実績		前年比	
	金額	売上比率	金額	売上比率	増減額	増減率
売上高	83,399	100.0%	94,869	100.0%	+11,469	13.8%
利益高	19,424	23.3%	21,897	23.1%	+2,472	12.7%
販管費	15,575	18.7%	17,768	18.7%	+2,192	14.1%
営業利益	3,849	4.6%	4,128	4.4%	+279	7.3%
経常利益	4,089	4.9%	4,377	4.6%	+287	7.0%
当期純利益	2,845	3.4%	3,118	3.3%	+272	9.6%
1株当たり 当期純利益	201.79円		206.55円		+4.76円	2.4%
新規出店	45店		30店		▲15店	▲33.3%
生鮮売場改装			128店 (残り61店)			

売上高・各利益高に関して、**全て過去最高を達成**

# 月次売上高 前年対比推移



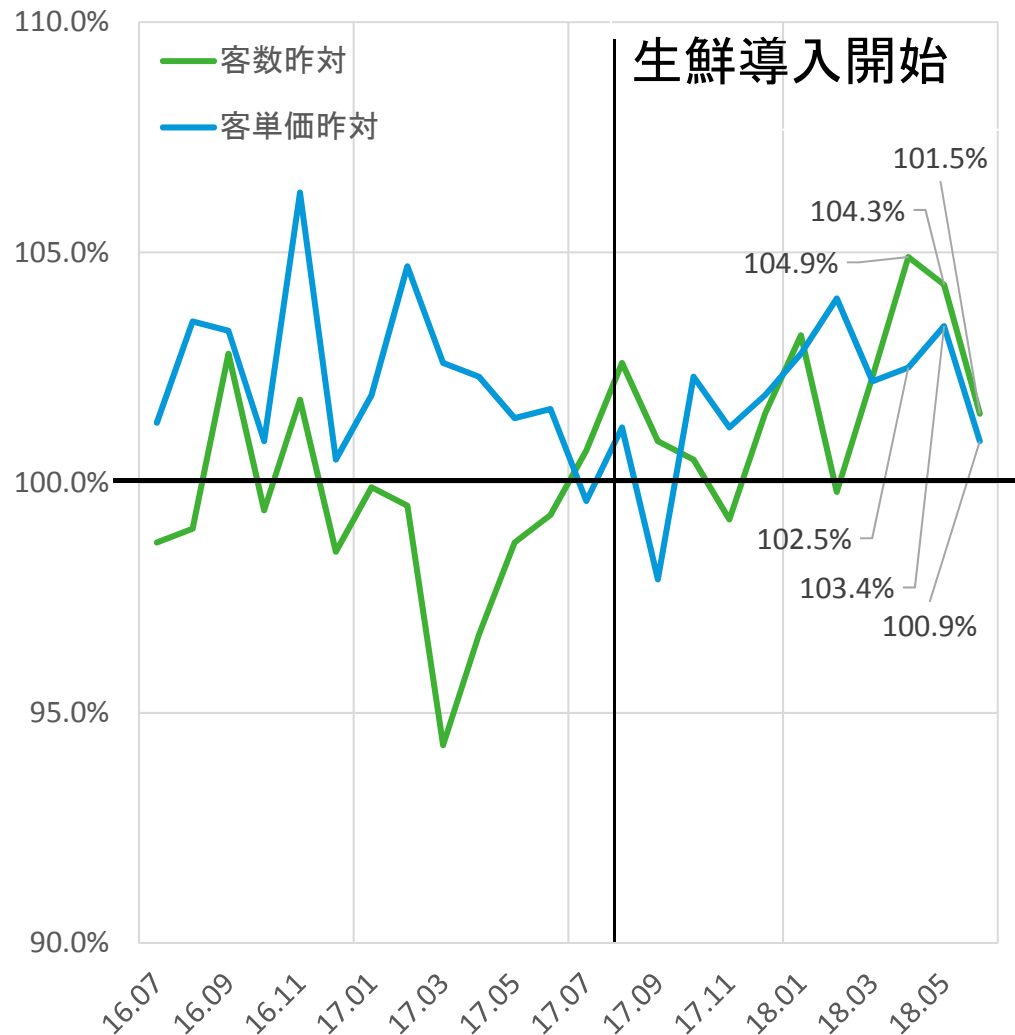
通期累計で、

全店昨対114.8%

既存店昨対103.5%と

生鮮導入によって安定伸長

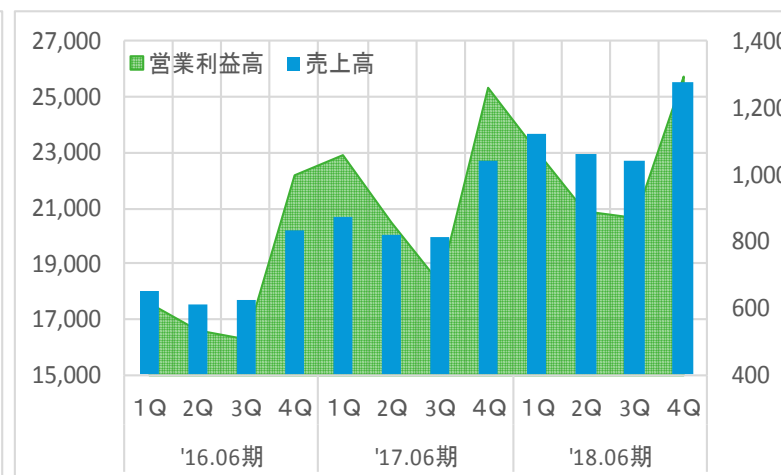
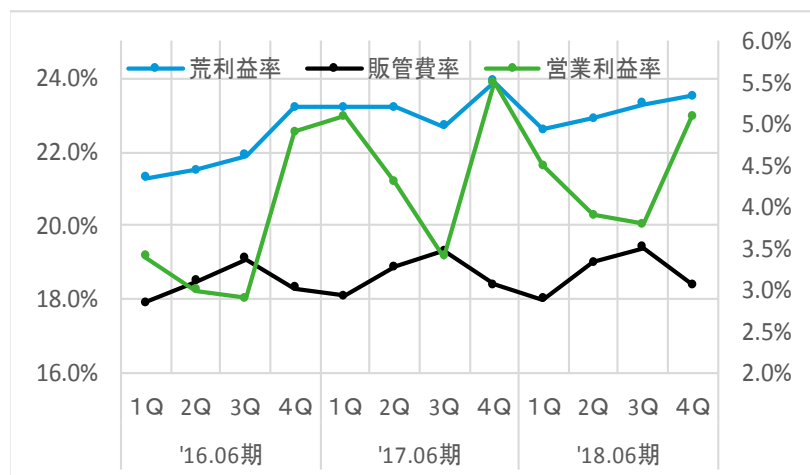
# 月次売上高 客数・客単価 前年対比推移



生鮮導入以降、  
客数・客単価ともに増加

1. 2018年6月期 本決算概要
- 2. 四半期会計期間分析**
3. 中期経営計画

# 四半期会計期間 連結業績推移



(単位:百万円)

	'16.06期					'17.06期					'18.06期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	18,031	17,546	17,719	20,198	73,495	20,706	20,016	19,959	22,718	83,399	23,686	22,937	22,689	25,555	94,869
荒利益率	21.3%	21.5%	21.9%	23.2%	22.0%	23.2%	23.2%	22.7%	23.9%	23.3%	22.6%	22.9%	23.3%	23.5%	23.1%
販管费率	17.9%	18.5%	19.1%	18.3%	18.4%	18.1%	18.9%	19.3%	18.4%	18.6%	18.0%	19.0%	19.4%	18.4%	18.7%
営業利益高	615	532	509	997	2,655	1,061	854	674	1,258	3,849	1,071	893	869	1,294	4,128
営業利益率	3.4%	3.0%	2.9%	4.9%	3.6%	5.1%	4.3%	3.4%	5.5%	4.6%	4.5%	3.9%	3.8%	5.1%	4.4%

例年と同じ傾向で第4四半期に期中最高売上、最高益

1. 2018年6月期 本決算概要
2. 四半期会計期間分析
3. **中期経営計画**



# 出店計画：3ヶ年エリア計画



	29期(19.06期) 計画			30期(20.06期) 計画			31期(21.06期) 計画		
	出店	店舗数	シェア	出店	店舗数	シェア	出店	店舗数	シェア
福井	8店	64店	47.4% 1位	5店	69店	48.6% 1位	10店	79店	50.6% 1位
石川	4店	20店	11.8% 2位	35店	55店	26.6% 2位	30店	85店	35.1% 1位
岐阜	17店	115店	27.9% 2位	10店	125店	28.2% 1位	10店	135店	28.2% 1位
愛知	12店	59店	6.7% 5位	30店	89店	9.5% 5位	50店	139店	13.4% 3位
合計	41店	258店		80店	338店		100店	438店	

既存店の生鮮改装は2018年11月末までに完了予定。新店はすべて300坪R店(生鮮導入タイプ)

**石川県・愛知県への出店強化体制へ**

# 出店を支える 物流 1



2019年6月期

岐阜県に、ドライ・チルド・プロセスセンター『安八RDC』始動  
(投資総額 50億円 / 延床面積 13,000坪)



- 外部倉庫をすべて解約して物流拠点を集約  
1億円/年 の物流コスト改善
- 自社運営のプロセスセンターによって、  
アウトパックしていた生鮮食品の内製化、  
収益性の改善

※物件投資により固定資産は増加するが、  
間接金融調達によって資本効率性は維持

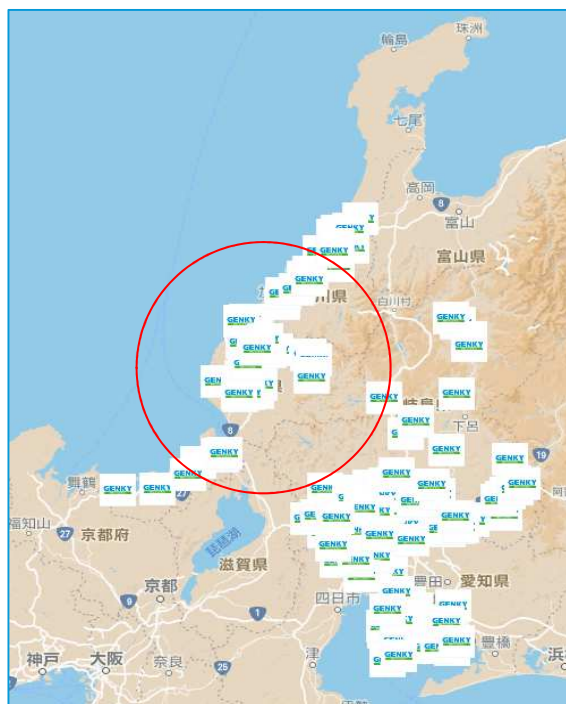
## 出店を支える 物流 2



2020年6月期

福井県の物流センター『丸岡DC』の増床

(投資総額 2.5億円 / 延床面積 2,300坪 → 3,100坪)



- 北陸エリアの外部倉庫を解約し、1,000万円/年の物流コスト改善
- 石川エリアへの出店を支える自社物流体制の強化

# 出店を支える 完全標準化店舗



## 特徴

- 生活必需品に特化した品揃えで  
高来店頻度の実現
- レイアウト、オペレーション、品揃えなど  
徹底標準化でローコスト経営の実現
- 業界トップの『従業員1人当たり売場面積』で  
人件費増加を抑制、採用難に対応

ドラッグストア業界最少の7,000人商圏でも  
集客と収益を確保できる店

# 出店を支える 完全標準化店舗（生鮮食品）



## 特徴

- 自社プロセスセンターによる  
店舗での加工作業なし
- 本部での在庫管理により  
店舗発注作業なし
- 本部主導でマニュアル化された  
鮮度管理システム

『店舗作業・店舗判断』による高コスト化を防ぎ、  
本部主導で標準化された鮮度・在庫管理を実現

# 出店を支える 自前主義



## 店舗開発

- 不動産ディベロッパーを介さない自社開発によって、  
**最適な立地確保と不動産費の圧縮**を実現

## 物流

- 3PLに頼らない自社運営で  
**業界最低の物流費比率**を維持

## 教育

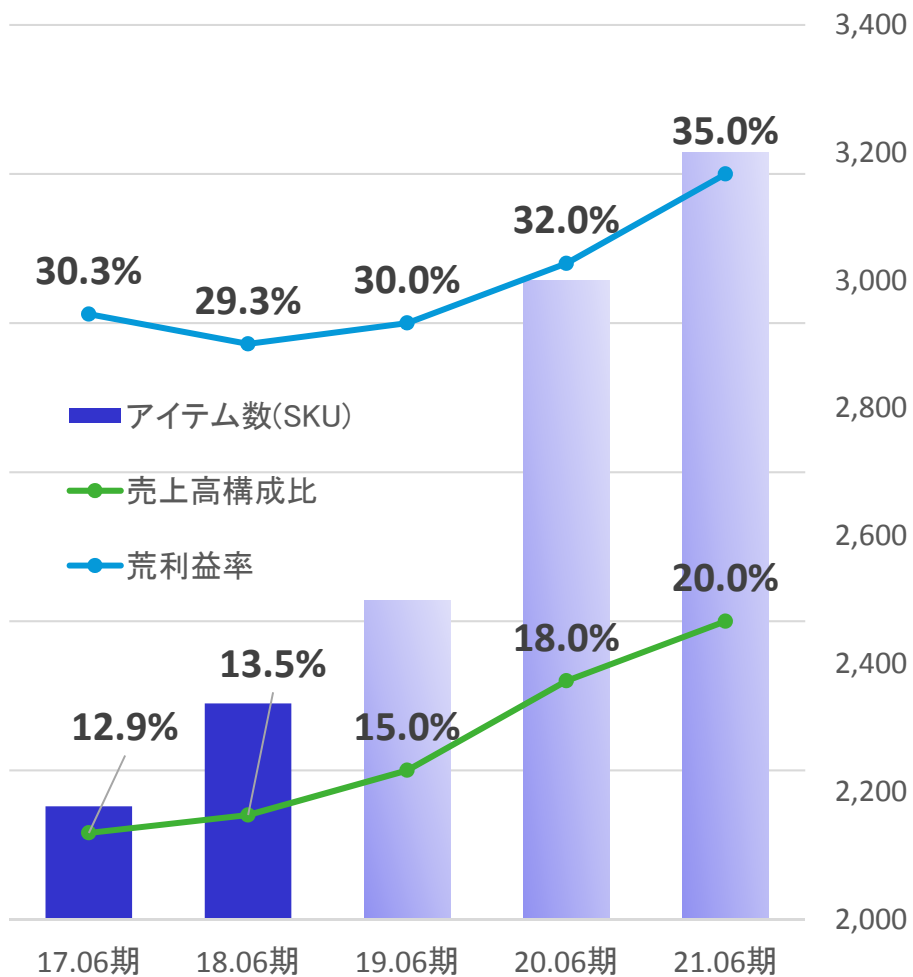
- **社長自らが学長**となる「ゲンキー大学」での  
全社的チェーンストア教育

## 直間比率

- 他社スカウトやスペシャリスト採用で間接部門(本部社員)  
を強化、業界平均6~7%のなか、**15%超の先行投資**

ローコスト経営の根幹として自前主義を貫き、  
**業界最低の坪当たり経費高19万円台/坪・年**を維持

# プライベートブランド 拡充計画



引き続き、**低価格と高収益**の  
バランスを取ったMD計画で、

- 顧客のデフレマインド対応
- 買上げ点数の向上
- NBディスカウントの原資

# 中期経営計画



	第29期(19.06期)			第30期(20.06期)			第31期(21.06期)		
	(億円)	売上比	前年比	(億円)	売上比	前年比	(億円)	売上比	前年比
売上高	1,100	-	116.1%	1,300	-	118.2%	1,600	-	123.1%
荒利益高	250	22.7%	114.2%	295	22.7%	118.0%	370	23.0%	125.4%
販管費	200	18.2%	112.6%	235	18.0%	117.5%	290	18.0%	123.4%
営業利益高	50	4.5%	121.1%	60	4.7%	120.0%	80	5.0%	133.3%
当期純利益	35	3.2%	112.3%	43	3.3%	122.9%	56	3.5%	130.2%
EPS	226.1円		112.1%	277.8円		122.9%	361.8円		130.2%
新規出店	41店		136.7%	80店		195.1%	100店		125.0%
設備投資額	120億		211.8%	120億		100.0%	150億		125.0%
自己資本比率	38.0%		-	36.5%		-	35.5%		-
D / E Ratio	0.80		-	0.92		-	0.98		-
坪当たり	売上高	1,100千円		1,100千円		1,100千円			
	荒利益高	246千円		250千円		253千円			
	経費高	197千円		198千円		198千円			
	営業利益高	49千円		52千円		55千円			

※全て  
営業CFと  
間接金融で  
調達

既存店昨対 107%

既存店昨対 105%

既存店昨対 105%



—ご注意—

本資料に記載されている予想数値は、当社が現在において入手可能な情報、及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に基づく仮定を前提としています。

また、プレゼンテーションの際の説明には、将来の見通し・判断・計画あるいは戦略が含まれています。これら将来予測による記載及び発言は不確定要素を含んでいることから、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。



**【問い合わせ先】**

Genky DrugStores 株式会社 IR広報室

TEL : 0776-67-5240 (ゲンキー株式会社 代表)